三里塚人民抑圧空港粉砕！ 建設工事阻止―開港実力粉砕！ 革命的労農学の連合で闘い抜こう！

10.12 三里塚第二次統一被告団（70年9月〜71年3月 59名）初公判に総結集せよ

分割公判への道＝「午前部」「午後部」を見抜き、統一公判（検事側立証の統一）を何としてでも獲得してゆこう。弾圧の尖兵＝千葉地裁を打ち砕け

全国の戦斗的労働者、学生、農民の皆さん！ そして、共に三里塚の地で、非道きわまりない权力との攻防戦を、先頭で斗い切り、不当にも逮捕・起訴の弾圧を受けつつ、反対同盟と共に、三里塚空港粉砕へ向け統一公判で斗い抜かんとする多くの同志の諸君！

10月12日第2次統一被告団59名の初公判へ、結集されんことを、プロレタリア統一戦線第2次統一被告団より呼びかけます！

8月31日千葉地裁は第一回公判を統一弁護団との接衝を強圧的に打ち切り、強行せんとした。しかし、自から期日を設定しておきながら、台風も予知できず2人の判事が遅れてくるという笑い話しを行なってしまったのだ。ものものしい警備体制を引きながら主人の居ない監獄は、台風をついて全国から結集した多くの同志により熱気がこもった決起集会の場となって生きかえった。そこで反対同盟委員長戸村氏は今の裁判官や警察署長そして検事は、戦前や戦争中何をやったのか？戦犯として裁かれた者たちだ。刑務所は朝鮮人や社会主義者キリスト者など天皇制を受け入れない人々を弾圧する機関だった。そしてそうした人々が一つになって私したちを弾圧してくる。こいつらに私したちを裁くことが出来るのか？けっしてこのようなことを許さない。裁き返してやるまで死をかけて斗う」と発言し、さらに、9日に迫っていた第2次強制代執行阻止を、いかなる弾圧をもはねかえして斗い抜くと熱斗宣言していった。この間ハレンチにも地裁は判事が到着したから開廷するなどと云い、全国から東京駅まで着きながら台風で電車が止って来るにも来れない同志7名を切り捨て強行しようとまで、自からが遅れてきたことをタナ上げしてたくらんだのである。これこそ彼ら支配者階級の尖兵へと純化した司法官僚＝裁判官どもの素顔である！ 斗うものへ屈服をせまる攻撃（逮捕―拷問―起訴―長期勾留＝実質懲役―分割公判―実刑判決）をなわち但うが权力へ、もの云わぬ羊の群のごとく動くバラバラに分断された死んだ個人へとおとしこめんとする彼らのやり方の「くさび」であるのだ。

70年沖縄返還―72年5月開港という日本の対内―外を貫いて進行する戦后社会諸関係の再編が日常生活からも感じ取れる程、大規模に推し進められている。それは司法の領域でも73年刑法全面改悪―保安処分の導入として完成されようとしている。これは帝国主義者のブルジョアジーとしての解決であり、我々に対して反革命戦争とファシズムと合理化を許容させんとする帝国主義国民統合の安全弁としてあるのだ。

裁判長は接衝を打ち切ったばかりか、被告側の意見表明を統一にするということすらボカしているばかりか、「午前部」「午后部」の併合も、成り行きの中では考えられない」といった、アメとムチを持って公判を強行しようとしていることに注目せよ！ 三里塚第2次統一公判の内実が、結局一人一人の斗ったことを裁いている時、彼らに二度とイカサマは通用しないということを、太中達裁判官にたたきつけてやろうではないか。

何度でも要求する！ 統一公判＝検事側立証を統一せよ！

一切の分割公判強行は許さずに粉砕する！

労農学の革命的団結を更に強く固め共に三里塚斗争を斗い抜こう！

10.12千葉地裁へ結集せよ！

千葉地裁 集合 AM9:30

プロレタリア統一戦線

三里塚第2次被告団